

(1) 経営の安全性・効率性に関する主な経営指標

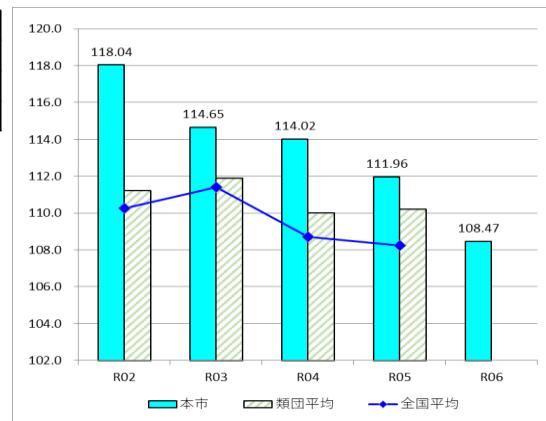
人口減少、節水意識の向上、節水型電化製品等の普及による給水収益の減少と物価高騰に起因する費用の増加に伴い、悪化傾向が続いている。

① 経常収支比率 (%) 経常収益 ÷ 経常費用 × 100

給水収益や一般会計繰入金等の収益で、維持管理費や企業債利子等の費用をどの程度賄えているかを表すものです。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要となります。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	118.04	114.65	114.02	111.96	108.47
類団平均	111.21	111.89	109.99	110.20	
全国平均	110.27	111.39	108.70	108.24	

全国平均、類似団体平均より高く、健全経営の水準となる100%を上回る状態を維持していますが、このままでは数年後には100%を下回り赤字となることから、事業運営の効率化や適切な料金体系のあり方について検討する必要があります。

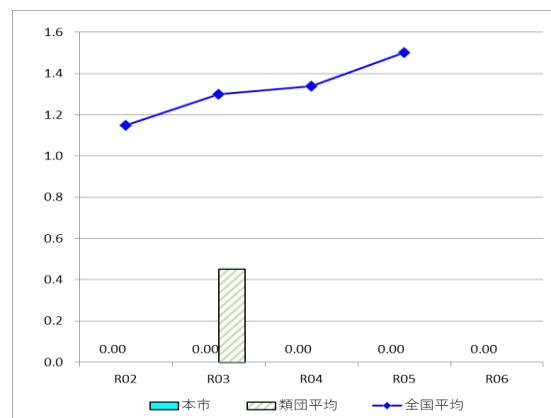


② 累積欠損金比率 (%) 当年度未処理欠損金 ÷ (営業収益 - 受託工事収益) × 100

営業収益に対する累積欠損金の状況を表すものです。財政の健全性から、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
類団平均	0.00	0.45	0.00	0.00	
全国平均	1.15	1.30	1.34	1.50	

累積欠損金が発生していないことから、経営状況は健全であるといえますが、このままでは数年後には赤字が累積していくこととなるため、事業運営の効率化や適切な料金体系のあり方について検討する必要があります。

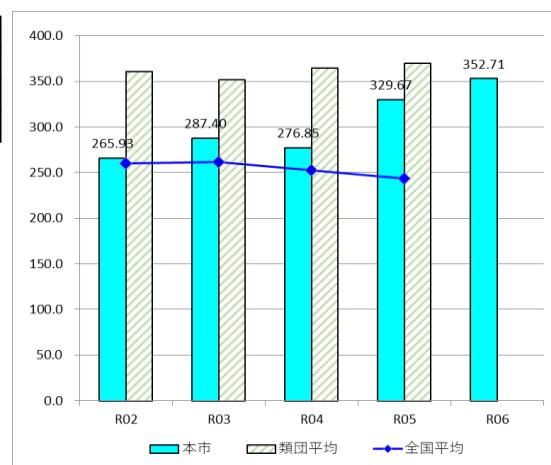


③ 流動比率 (%) 流動資産 ÷ 流動負債 × 100

流動負債に対する流動資産の割合であり、短期的な債務に対する支払能力を表すものです。1年内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要です。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	265.93	287.40	276.85	329.67	352.71
類団平均	360.96	351.29	364.24	369.82	
全国平均	260.31	261.51	252.29	243.36	

類似団体平均と比較すると低い状況が続いているが、1年内に現金化できる見込みのある資金が、1年内に支払義務のある負債を上回っていることを示す100%を超える状態を維持しながら、上昇傾向で推移しているため、支払い能力に問題はないといえます。

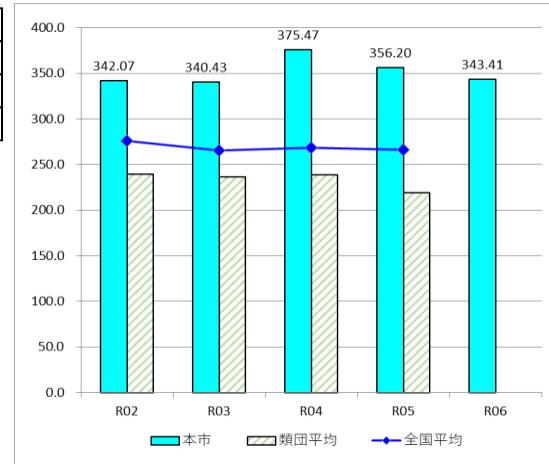


④ 企業債残高対給水収益比率 (%) 企業債現在高合計 ÷ 約水収益 × 100

給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表すものです。明確な数値基準はありませんが、この割合が小さいほど、資金調達における企業債への依存度が低いことを示しており、経営状態の安全性は高いといえます。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	342.07	340.43	375.47	356.20	343.41
類団平均	239.18	236.29	238.77	218.57	
全国平均	275.67	265.16	268.07	265.93	

企業債償還金とのバランスも考慮しつつ、企業債を借り入れているものの、類似団体平均と比較すると高い数値であり、企業債への依存度が高いことを示しています。

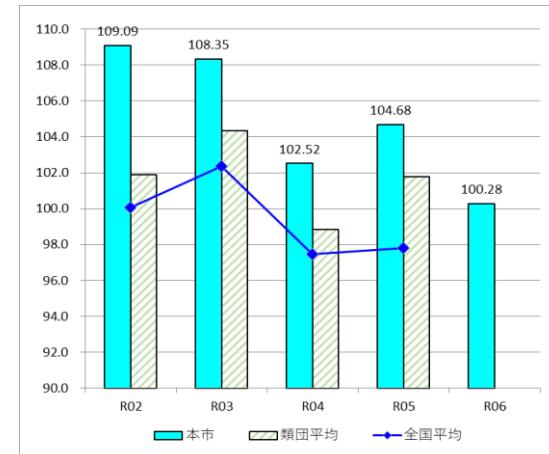


⑤ 料金回収率 (%) 供給単価 ÷ 約水原価 × 100

給水に係る費用を、どの程度給水収益で賄えているかを表すもので、料金水準が適正かどうかを判断できるものです。給水に係る費用を給水収益で賄えていることを示す100%以上であることが必要です。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	109.09	108.35	102.52	104.68	100.28
類団平均	101.89	104.33	98.85	101.78	
全国平均	100.05	102.35	97.47	97.82	

給水に係る費用を給水収益で賄えている状態を示す100%をわずかに上回っていますが、給水収益の減収と費用の増加に伴い悪化しており、事業運営の効率化や適切な料金体系のあり方について検討する必要があります。

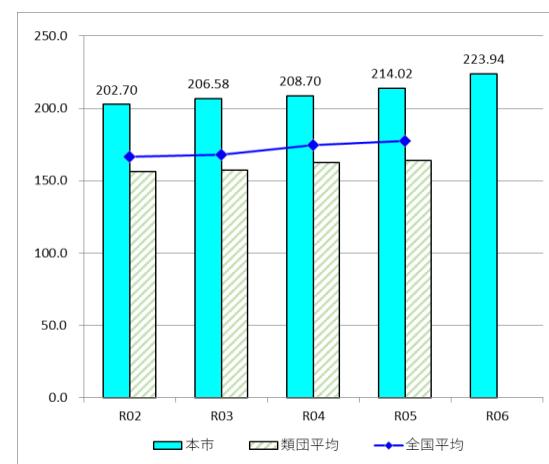


⑥ 約水原価 (円) {経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費)} - 長期前受金戻入} ÷ 年間総有収水量

有収水量1m³当たりに、どれだけの費用がかかっているかを表すものです。明確な数値基準はなく、経年比較や類似団体との比較で適切かどうかを分析します。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	202.70	206.58	208.70	214.02	223.94
類団平均	156.32	157.40	162.61	163.94	
全国平均	166.40	167.74	174.75	177.56	

市内に安定した水源がなく市外に水源を求めているため費用がかかることから、全国平均、類似団体平均と比較すると高い数値を示しています。有収水量の減少と費用の増加により、上昇傾向で推移しています。

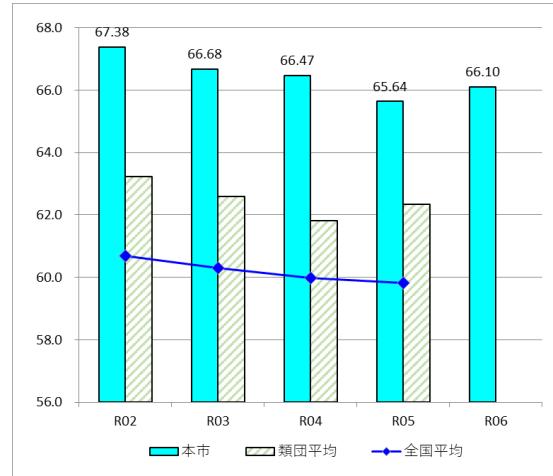


⑦ 施設利用率 (%) 一日平均配水量÷一日配水能力×100

一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断するものです。施設が効率的に運営されていることを示す高い数値であることが望まれます。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	67.38	66.68	66.47	65.64	66.10
類団平均	63.23	62.59	61.81	62.35	
全国平均	60.69	60.29	59.97	59.81	

全国平均、類似団体平均と比較すると高い数値であり、効率的な施設運営ができていることを示していますが、人口減等による水需要の減少に伴い、配水量は今後も減少傾向となるため、数値は低くなる見込みです。



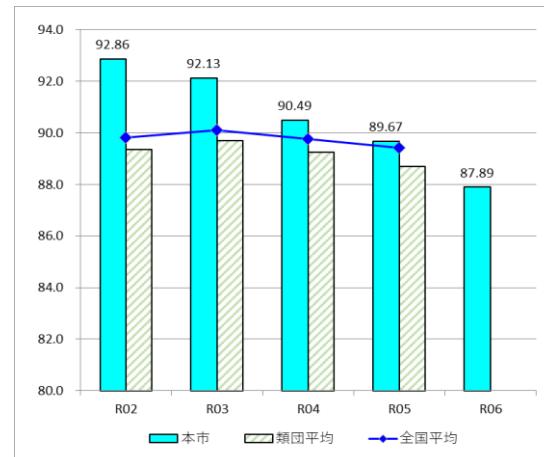
⑧ 有収率 (%) 年間総有収水量：年間総配水量×100

年間の配水量に対する料金徴収の対象となった有収水量の割合であり、施設の稼働が収益につながっているかを判断するものです。施設の稼働状況が収益に反映されていることを示す100%により近い数値であることが望されます。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	92.86	92.13	90.49	89.67	87.89
類団平均	89.35	89.70	89.24	88.71	
全国平均	89.82	90.12	89.76	89.42	

全国平均、類似団体平均と比較するとやや高い数値であったものの、漏水等の影響で悪化傾向となっています。

漏水箇所の早期発見、迅速な管路修繕による漏水量の抑制とあわせ、老朽管更新に計画的に取り組む必要があります。



(2)老朽化の状況に関する主な経営指標

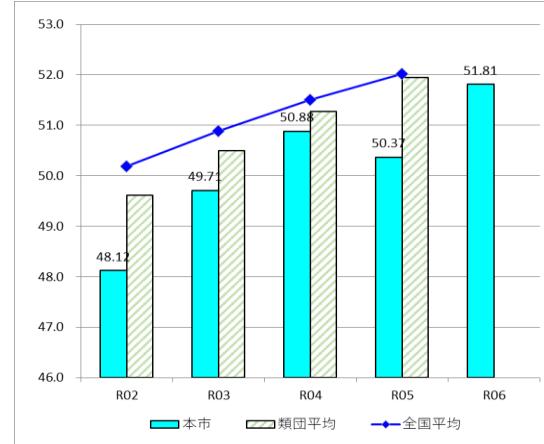
通水開始以来100年以上が経過する中、拡張を重ねてきましたが、人口減少等に伴う給水量が低下する中、適切な維持管理や老朽施設の更新が課題となっています。

① 有形固定資産減価償却率 (%) 有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価×100

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表すものです。この数値が高いほど資産の老朽化度合が高いことを示しています。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	48.12	49.71	50.88	50.37	51.81
類団平均	49.62	50.50	51.28	51.95	
全国平均	50.19	50.88	51.51	52.02	

令和5年度は延命配水池更新工事が完了したことにより、一時的に下がりましたが、わずかずつながら上昇傾向で推移しており、老朽化した施設の更新に計画的に取り組む必要があります。

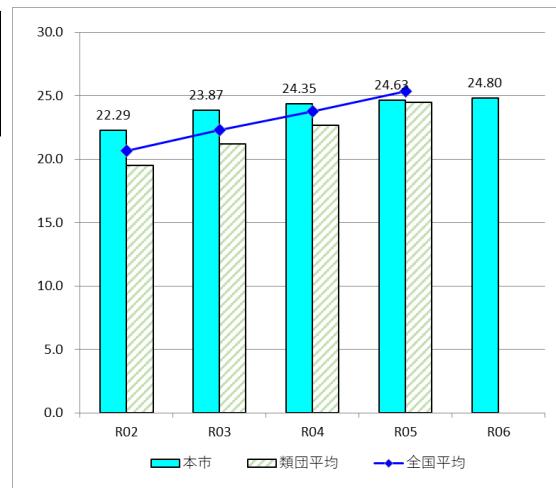


② 管路経年化率（%）法定耐用年数を経過した管路延長÷管路延長×100

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表すものです。この数値が高いほど法定耐用年数を経過した管路を多く保有していることを示しています。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	22.29	23.87	24.35	24.63	24.80
類団平均	19.51	21.19	22.64	24.49	
全国平均	20.63	22.30	23.75	25.37	

老朽管更新事業に取り組んでいますが、更新と同程度で老朽化のペースも進んでおり、わずかずつですが法定耐用年数を超える管路の割合が増えている状況です。



③ 管路更新率（%）当該年度に更新した管路延長÷管路延長×100

当該年度に更新した管路延長の割合を表すものです。管路の更新ペースや耐震化等の状況を把握し、計画的に更新することが求められます。

	R02	R03	R04	R05	R06
本市	0.76	0.28	0.58	0.36	0.39
類団平均	0.67	0.62	0.60	0.58	
全国平均	0.69	0.66	0.67	0.62	

配水施設再構築事業計画に基づき更新を行っているものの、全国平均、類似団体平均を下回っている状況です。他事業との調整が必要となることもあります。数値は増減することになりますが、引き続き計画的な更新に取り組みます。

